

☆季節ごとのねらいや配慮

春	0歳	午前寝が安定し生活リズムができてくるまでは無理をせず、園庭やテラスで遊んだり外気浴をしたりする。4月後半～連休明けぐらいから、バギーでひと回りしたり公園や芝生のある場所に出かけてシートの上で遊んだりする。園の周りの風景や春の自然に触れ、「電車来るかな～」風が気持ちいいね～」「ここにもお花が咲いてるね」などと、大人が語りかけ、共感していく。月齢差が大きくりズムが揃わない時期なので、全員で行こうとせず、大きい2グループで出かけたりのもする。
	1歳	新入児やまだ歩けない子もいるので、園庭(乳児園庭)を利用しながら近場の探索散歩やワゴンで出かけて公園で遊んだりする。歩きたい子もいれば帰りは歩きたくない子もいて意思はそれぞれ。1人ひとりの思いを尊重しつつ歩行の練習も兼ねつつワゴンを併用。ワゴン内でのかみつきやひっかきを防ぐため、乗り合わせのメンバーや乗る場所に留意。目的地に向かうだけでなく、春の自然や探索活動、小さなイベントも盛り込む。(木の実や石を拾う、花や虫と出会う、電車や工事を見る、砂利道や坂を歩く、犬や猫に手を振る、曲がり角で“パーッ!”…)
	2歳	新入児や個別配慮の必要な子が新しい環境に馴染んで、ある程度のルールが分かるようになるまでは無理をしない。子ども同士の手つなぎで列になって歩けるよう、近場から少しずつ距離を伸ばしていく。歩行力に合わせて、手をつなぐ相手や並ぶ順番に配慮する。場所により砂場用遊具やボールなどを持っていく。
	幼児	新入児の様子を見ながら近場から行く。異年齢クラスでは年少児と年長児が手をつなぐようにする。交通ルールや散歩の約束を身に付ける。春の自然に親しみ楽しむ。(川遊び、ザリガニつり、草花遊び、お花見ごっこ、芝生や土手で体を動かす等)暑くなってきたら水筒を用意してもらう。年長クラスはお泊り保育に向けての取り組みも入れていく。
秋	0歳	バギーで出かけて公園等で遊ぶ日と裏道や危険のない場所で自由に歩いて探索する日を設定する。小走りの子、ヨチヨチ歩きの子、バギーの子と動きが様々なので、大人同士が連携を取り安全に注意する。段差の上り下りやなだらかな斜面を歩くなど体の使い方を覚える経験を増やす。秋の自然や様々な事象、小さな発見や体験を大人と共有し合い、体や運動面だけでなく、認識面や言語、感情、感覚などにもアプローチしていく。
	1歳	手つなぎ散歩を増やしていく。ごっこ遊びの要素や共通体験を盛り込んで繰り返しを楽しみ、イメージを広げていく。暗い道で「オバケさんいますか～?」高い所で「ヤッホー!」いつも寝てるワンちゃんを起こさないように忍び足、原っぱでバツ捕り、この公園ではオオカミごっこ、落ち葉で魚釣りごっこやバーベキューごっこ、ベンチや切り株で電車ごっこやお出かけごっこ…
	2歳	朝のおやつがなくなるので午前中の活動を十分に保障。行き先を知らせ目的を持って出かけたりの、公園でのおみやげを元にしてその後のごっこ遊びや製作活動につなげたり、目的地までの道のりに演出(手を離して自由に歩いていい所を作る、狭い道は忍者になって歩く、散歩バッグやポーチを作ってどんぐりを拾って歩く等)を加えたりしてバリエーションを増やしていく。
	※蚊対策 幼児	気候が良く、子どもたちの体力もついてくるので、距離を伸ばして遠出の散歩を楽しむ。秋の自然に触れながらの遊び(木の実拾い、落ち葉遊び、虫捕り等)や体をたくさん動かす遊び(鬼ごっこ系、アスレチックやプレイパーク系、木・土手・山・川系など)を十分に楽しめるようにする。行事が多くなるので散歩自体は減る時期があるが、その日の活動の後半を散歩に充てたり、芋ほりや遠足で出かけたりの、戸外活動や体を使った遊びが増えたりする。お店屋さんごっこなど期間の長い取り組みも、定休日や社員旅行日を作って散歩に出たり、園庭でのお店屋さんを展開したりして、メリハリをつけている。
冬	0歳	生活リズムが揃ってくるので遊びの時間を十分に保障し活動量を増やしていく。でこぼこ道や斜面を利用して歩行力を促したり広い所にバギーやワゴンで出かけて体をたくさん動かしたりする。興味が広がってくるので、公園から出て行かないよう、拾った物を口に入れないよう注意する。帽子や靴の着脱など、散歩の前後も言葉を添えながら繰り返し大人と一緒に行動することで次の場面への見通しを持てるようにしたり、状況や順番を理解したりできるようにもしていく。発達に応じてグループごとに入室時間をずらしたりして、個々の活動量を調節したり、着替えや食事への流れがスムーズになるように担任間で連携を取る。
	1歳	手つなぎしやすい場所やルートを選び、手つなぎ歩きに慣れていく。歩き方や簡単な交通ルール、公園で気をつけること等を少しずつ覚えていけるようにする。霜柱や氷、冷たい風も宝物や友だちにしてしまうような演出や声かけをして、大人も一緒に共感して楽しむ。月齢や体力の差が大きく、個別の機嫌や体調も大きな波になるので、出発時間や行き先を調整したり手つなぎのペアや並ぶ順番、大人の位置を考慮したりする。
	2歳	歩くのが上手になり体力や集中力もアップしてくるので、距離を伸ばして経験を増やしていく。大人とつながらずに子ども同士のみで歩く子たちが増えると、楽しくなりすぎて前を見ていなかったり、手つなぎ方やペースの差でケンカになったりすることもあるので、手つなぎのペアや並ぶ順番、大人の位置を考慮する。幼児クラスへ向けて、散歩の約束を覚えていけるようにする。幼児と交流散歩をする。
	幼児	寒い日は散歩先で集団遊びやボール遊びをしてたくさん体を動かす。風あげ散歩も入れる。次年度のことも視野に入れ、さらに距離を伸ばしたり、年少・年中ペアで歩けるようにしたり、2歳児と交流散歩をしたりしていく。年長児は午睡がなくなるので、午前中の活動が十分にできるようにするとともに、生活リズムや体調の変化に配慮し、遠出の散歩やピクニック、小学校巡りをしながら、年長ならではの活動を楽しめるようにしていく。

☆散歩時の安全対策や留意点

- ◎ 緊急時の対応のため、散歩用リュック(中身:登降園名簿、筆記用具、救急箱、着替え、タオル、ティッシュ、ビニール袋、電話代、防犯ブザーやホイッスル、水など)を背負って行く。
- ◎ 園用の携帯電話がないので、引率職員全員が個人用携帯を送受信できる状態にして持っていく。
- ◎ 散歩のリーダーを決め、その人がリードをとり全体の責任を持つ。
- ◎ 散歩に行く時は、指定のノートや園務日誌に、日付、人数(子ども・引率職員)、当日のリーダー、行き先等を記入し、事務室に声をかける。帰園した時も事務室に声をかける。
- ◎ 散歩に行く時は、指定の散歩用帽子を全員かぶり、人数把握や安全確認をする。
- ◎ 出発前に、必ず名簿で名前の点呼と人数確認をし、携帯する。人数確認は複数で行う。
- ◎ 足と靴の大きさが合っているか、左右正しく履けているか、マジックテープやかかとかがきちんと合っているか確かめる。
- ◎ ベビーカーは安全ベルトを着用し、バギーやワゴンはバランスの取れる乗せ方に配慮する。ネジの緩みやパンク、ブレーキの状態等を随時点検し、適宜清掃やメンテナンスを行う。
- ◎ 実習生、ボランティア、参観の保護者には子どもと手つなぎはしてもらわない。
- ◎ 駐車中の自転車、バイク、車に触らないようにさせる。犬や猫にも触らない。
- ◎ 交通ルールを教える。
- ◎ 目的地に着いたら、危険物や不衛生なもの、不審な人物等の状況確認をし、ゴミを拾ってから遊ぶ。
- ◎ 目的地を変更する場合は必ず園に連絡する。
- ◎ 目的地では、保育士の立つ位置に配慮する。
- ◎ 帰る時は、出発前と同様に名簿で名前の点呼と人数確認をする。必ず複数で人数確認をし、子どもの様子にも目を配る。
- ◎ 散歩時の避難訓練や安全点検を行い、危険箇所やヒヤリハットなど、全職員で共通認識を持つようにする。
- ◎ アレルギーの子がいるクラスは行き先やルートを考慮し、エピペン持参の子がいるクラスは散歩にも持って行き、帰園後所定の場所に戻すようにしている。